

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 212-0013

住 所 神奈川県川崎市幸区堀川町580

氏 名 ソリッドスクエア管理組合

代表者 三浦 友和

印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策等の推進に関する条例第11条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	ソリッドスクエア管理組合		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市幸区堀川町580		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	K	不動産業, 物品賃貸業
	中分類	69	不動産賃貸業・管理業
主たる事業 の内容	不動産業		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	5,886	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t -CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	2022 年度 ~ 2024 年度 (報告年度 2024 年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況(第1、2、4号該当者等)

(1) 計画期間における温室効果ガスの排出の量等の状況

ア 温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
	(2021年度)	(2022年度)	(2023年度)	(2024年度)	
排出量 (t-CO2)	(実) 10,756 (調) 10,673	(実) 10,888 (調) 10,868	(実) 11,226 (調) 9,887	(実) 10,329 (調) 10,329	(実) 10,430 (調)
削減率		(実) -1.2% (調) -1.8%	(実) -4.4% (調) 7.4%	(実) 4.0% (調) 3.2%	(実) 3.0% (調) %

イ 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値(任意記載)

原単位等の活動量	特殊面積				原単位等の単位	t-CO2/万㎡
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度		
	(2021年度)	(2022年度)	(2023年度)	(2024年度)		目標とした値
排出量原単位等の値	0.1571	0.1928	0.1982	0.1843		0.1524
活動量の値	68,432	56,468	56,631	56,023		-
排出量原単位等の削減率		-22.7%	-26.2%	-17.3%		3.0%

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況等についての説明

第1年度	2022年度は2021年当時と比較し、CO2排出量はほぼ同水準だが、テナント変更等に伴い、密接関係値の大幅な変更が発生し削減率が停滞した。大きな要因として、コロナ禍の生活様式の変更に伴う、利用者増、6月末からの猛暑で2021年度以上の冷房要求が増え、熱源(吸収式冷温水発生器)を多く使用し、ガスの使用量が大幅に増えたことが大きな要因と考えられる。 ガス使用量 2021年度653千㎡ 2022年度800千㎡
第2年度	昨年度と比べると微増となっており、ガス使用量の増加、外気温の上昇が要因として考えられる。ガス使用量増加の要因としては下記のとおり ・ガス使用量の増加原因としては月ごとの平均気温、最高気温とともに過去3年で一番高い月が多く発生し、吸収式冷凍機の使用が増加(都市ガスの使用が増加)した。 ・7月~10月の冷房負荷の高い時期に蓄熱用ターボ冷凍機の不具合が発生し、吸収式冷凍機の使用が増加(都市ガスの使用が増加)した。 ・12月~1月熱交換器の不具合により、吸収式発生器の使用が増加(都市ガスの使用が増加)した。 ガス使用量 2022年度800千㎡ 2023年度932千㎡
第3年度	2024年度は基準年度と比較し、CO2排出量については約7.6%の削減、温室効果ガスの排出量については活動量の値が約18.1%との削減となっており、温室効果ガスについては目標値を達成することができている。 当ビルでは熱源設備の更新、空調機器の更新、照明器具のLED化などを進めているが、2021年から2024年度の夏季(7~9月)が約1.5℃上昇、冬季(12~2月)においても約1.0℃している。そのため熱源負荷の上昇により削減量が抑えられていると考えている。 ガス使用量 2023年度932千㎡ 2024年度945千㎡ 電気使用量 2023年度19988千Kwh 2024年度19591千Kwh
計画期間における排出量増減等の評価 (第3年度の報告時に記載)	都市ガスの使用量はコロナ禍前に戻りつつあるがコロナ禍前の2019年度(983.081㎡)比で約3.9%削減。電気使用量においては2021年度比約5.7%削減できている。 外気による熱負荷が増える中、各使用量については着実に削減を図れていると考えている。
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)	引き続き、熱源機器、空調設備、照明器具のLED化を進め省エネルギーによるCO2排出量の削減対策を行う。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況(全社目標)(任意記載)

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況

(1) 措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない装置を実施した場合は、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

<p>計 画</p>	<p>2025年より熱源機器の更新も含めて検討しており、2022年～2024年までは準備期間と捉え引き続き温室効果ガスの削減を意識して対応していく。○各種設備の運転時間短縮：下記の機器を対象に運転時間の短縮を検討。 ・共用部給排気ファン ・空調機 ・蒸気ボイラー ・各種熱源機 ○夏期・冬期における外気導入量の抑制 ・CO2制御の設定値を再度検討し、熱負荷となる外気の導入量を制御。 ○共用部照明のLED化 ・消費電力の少ないLED照明を導入することにより省エネを図る。 ○熱源機器のオーバーホールの実施 ・各熱源機器のオーバーホールを行い、熱源生産の効率化を図る。 ○パッケージ型空調機更新 ・消費電力の少ないパッケージ型空調機への更新により省エネを図る。 ○空気調和設備の効率化 ・アトリウム等、大空間系統の空調設備の稼働台数調整 ・季節変動に応じた冷却水温度・冷水送水温度の最適化 ・運転効率の高い熱源機器の優先起動</p>
<p>第1年度</p>	<p>2025年より熱源機器の更新も含めて検討しており、2022年～2024年までは準備期間と捉え引き続き温室効果ガスの削減を意識して対応していく。○各種設備の運転時間短縮：下記の機器を対象に運転時間の短縮を検討。 ・共用部給排気ファン ・空調機 ・蒸気ボイラー ・各種熱源機 ○夏期・冬期における外気導入量の抑制 ・コロナが5類になったことに伴い、外気取り入れ量を今後フレキシブルに変更していく。 ○共用部照明のLED化 ・消費電力の少ないLED照明を導入することにより省エネを図る。 ○熱源機器のオーバーホールの実施 ・各熱源機器のオーバーホールを行い、熱源生産の効率化を図る。 ○パッケージ型空調機更新 ・消費電力の少ないパッケージ型空調機への更新により省エネを図る。 ○空気調和設備の効率化 ・アトリウム等、大空間系統の空調設備の稼働台数調整 ・季節変動に応じた冷却水温度・冷水送水温度の最適化 ・運転効率の高い熱源機器の優先起動 ※電力逼迫警報等発令時は水盤停止等の措置も行う。</p>
<p>第2年度</p>	<p>2025年より熱源機器の更新も含めて検討しており、2022年～2024年までは準備期間と捉え引き続き温室効果ガスの削減を意識して対応していく。○各種設備の運転時間短縮：下記の機器を対象に運転時間の短縮を検討。 ・共用部給排気ファン ・空調機 ・蒸気ボイラー ・各種熱源機 ○夏期・冬期における外気導入量の抑制 ・コロナが5類になったことに伴い、外気取り入れ量を今後フレキシブルに変更していく。 ○共用部照明のLED化 ・消費電力の少ないLED照明を導入することにより省エネを図る。 ※2024年度 東館4～23階共用部照明をLED化予定(4/1～5/17) ○熱源機器のオーバーホールの実施 ・各熱源機器のオーバーホールを行い、熱源生産の効率化を図る。 ※2024年度 ボイラー2号機について更新予定(還流ボイラー) ○パッケージ型空調機更新 ・消費電力の少ないパッケージ型空調機への更新により省エネを図る。 ○空気調和設備の効率化 ・アトリウム等、大空間系統の空調設備の稼働台数調整 ・季節変動に応じた冷却水温度・冷水送水温度の最適化 ・運転効率の高い熱源機器の優先起動 ※電力逼迫警報等発令時は水盤停止等の措置も行う。</p>
<p>第3年度</p>	<p>2024年度より熱源機器の更新を行っている。その他設備機器の更新を含め温室効果ガスの削減を目指す ○各種設備の運転時間短縮：下記機器にて検討 ・共用部吸排気ファン ・空調機 ・蒸気ボイラー ・各種熱源機 ○夏季・冬季における外気導入量の抑制 ・外気取り入れ量の調整を行い、熱負荷効率を上昇させる ○共用部照明のLED化 消費電力の少ないLED照明を導入することにより省エネ化を図る ・東館23階～4階共用部照明LED化 ・3階～B1階共用部照明LED化(追加実施) ・避難階段照明LED化を実施(追加実施) ・東館18階専用部内LED化(追加実施) ○熱源機器の更新 ・ボイラー2号機 炉筒煙管ボイラーを貫流ボイラーへ更新 ・ボイラー1号機 上記同様更新予定(2025年度) ○パッケージ型空調機更新 ・消費電力の少ないパッケージ型空調機への更新により省エネを図る ○空気調和設備の効率化 ・アトリウム等、大空間系統の空調設備の稼働台数調整 ・季節の負荷変動に応じた冷却水温度・冷水送水温度の最適化 ・運転効率の高い熱源機器の優先起動 ※電力逼迫警報等発令時は水盤停止等の措置も行う</p>
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	<p>外気による熱負荷が増える中、熱源機器の更新や、照明のLED化など、着実に省エネ化を図れていると考えている。</p>

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 前年度における再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

（追加検討を実施した場合は「○」、追加の検討を実施していない場合は「×」を記載してください。また、追加検討を実施した場合はその結果を記載してください。）

再生可能エネルギー源等の種類	追加検討の有無	検討結果
太陽光	×	
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他（ ）		
その他（ ）		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度

(3) 前年度に実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入状況

（追加導入がある場合は「○」、追加導入がない場合は「×」を記載してください。）

設備等の種類	追加導入の有無	設備等の種類	追加導入の有無
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム(FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他（ ）	
EV、PHV、FCV	×	その他（ ）	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	該当事項なし。
第1年度	該当事項なし。
第2年度	該当事項なし。
第3年度	該当事項なし。

5 その他、地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 廃棄物の減量化・分別化の促進 2. 施設スタッフの公共交通機関使用の促進 3. 外構植栽の管理 4. 設備・清掃員のユニフォームエコ素材の使用
第1年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 廃棄物の減量化・分別化の促進 2. 施設スタッフの公共交通機関使用の促進 3. 外構植栽の管理 4. 設備・清掃員のユニフォームエコ素材の使用 5. ELVモニターを活用した各事業者へエコ運動啓発のお願い実施(追加実施)
第2年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 廃棄物の減量化・分別化の促進 2. 施設スタッフの公共交通機関使用の促進 3. 外構植栽の管理 4. 設備・清掃員のユニフォームエコ素材の使用 5. ELVモニターを活用した各事業者へエコ運動啓発のお願い実施
第3年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 廃棄物の減量化・分別化の促進 2. 施設スタッフの公共交通機関使用の促進 3. 外構植栽の管理 4. 設備・清掃員のユニフォームエコ素材の使用 5. ELVモニターを活用した各事業者へエコ運動啓発のお願い実施 6. 炉筒煙管ボイラーから貫流ボイラーへ更新(省エネルギー化) 7. 照明設備をLEDへ更新(省エネルギー化)

6 基準年度からのエネルギー起源CO₂の排出の量等の推移（1、2号該当者等）

(1) 事業者単位

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
エネルギー起源 CO ₂ 排出量	10,756 t-CO ₂	10,888 t-CO ₂	11,226 t-CO ₂	10,329 t-CO ₂
原油換算エネルギー 使用量	5,965 KL	5,916 KL	6,091 KL	5,886 KL
事業所の数	1	1	1	1

(2) 事業所等单位

ア 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
ソリッドスクエア	神奈川県川崎市幸区堀川町580番地	10,756	10,888	11,226	10,329

イ 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度